

求人数は過去最高の売り手市場
「働き方改革」進める企業に注目

転職バブルの

リクルートキャリアの転職情報サイト「リクナビNEXT」の調べでは、転職におけるキャリア志向は3割弱にとどまる。非キャリア志向のほうが5割と上回った。ネットの検索項目でも「在宅勤務」「残業」といったキーワードが上見傾向だ。リクルートキャリアは「ライフフィット転職」というキーワードを今年から提唱している。

広がる「ライフフィット転職」 人気企業、トップはグーグル

「育児や介護をしながら働く人はこれからも増える。家族優先の働き方を前提に仕事を探す人に、企業も向き合えないといけない」リクナビNEXTの藤井薫編集長(51)は、人手不足が今後さらに深刻化し、優秀な人材が労働時間などの条件を主張しやすくなると予想する。

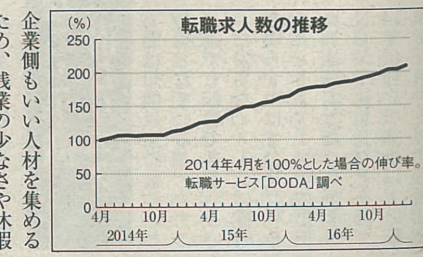
「人口が急速に減少し、2030年には労働人口が約820万人減るとの見通しもある。労働人口が多い時代は、企業はたくさん採用し、会社に合わない人に辞めてもらう手法をとれた。しかし、これからはできない。在宅勤務を認めるなど、働き続けやすい環境を支援するようになる。転職でも、譲れない条件を遠慮せずに提示する人のほうが入社後に活躍しやすい」

転職市場での人気企業ランキングにも、WLB重視が表れている。DODAが昨年22～39歳の5163人に「転職したい会社」を聞いたところ、働き方改革を進めるところが上位に入った。例えば1位「グーグル」や5位「Apple」「Japan」など、多様な働き方を選びやすいイメージの外資系IT企業が選ばれている。日本企業でも、本社に託児所やフィットネスクラブなどを充実させた楽天が6位。「WLBを実現できそう」という理由が多かった。資生堂は8位だった。

中古マンションを扱う日本財託(東京)の男性課長(45)は、昨年5月まで大手の不動産会社に勤めていた。土日は営業で忙しく、帰宅が午後10時になることも珍しくなかったという。「妻や幼稚園に入った娘とふれあえる時間をできるだけ取りたかったことも、転職を決めた理由の一つ。今は残業はほぼなくなり、週末は家族3人で過ごせる」仕事内容は住宅販売から、

中古マンションの調達に変わった。「同じ業界でも仕事内容が大変だが、刺激がある。十数年やってきたことに区切りをつけて、新しいことにチャレンジしたかった。転職は勢いがないとできない。結果的に、移って良かったが、会社の実情は入るまでわからない。踏ん切りをつけるには、合わないなら次に行けばいいという開き直りも必要だ」

820万人減るとの見通しもある。労働人口が多い時代は、企業はたくさん採用し、会社に合わない人に辞めてもらう手法をとれた。しかし、これからはできない。在宅勤務を認めるなど、働き続けやすい環境を支援するようになる。転職でも、譲れない条件を遠慮せずに提示する人のほうが入社後に活躍しやすい」



勝ち組負け組

転職人気企業、トップはグーグル
要注意、立ちはだかる「35歳の壁」

新年度が始まり、今は転職市場が最も盛り上がる時期。人手不足で求人数は過去最高を更新し、「転職バブル」とも言われる。希望の企業や仕事に移る人が目立つ一方で、年齢の壁もあり、うまくいかない人もいる。「勝ち組」と「負け組」がはっきり分かれている状況だ。

「転職市場に18年間関わっているが、今が最も活況だ。目標どおり人材を確保できている企業は一握りしかない」

こう指摘するのは、大手人材会社インテリジェンスの転職サービス「DODA(デューダ)」の木下学編集長(40)。2008年後半のリーマン・ショックで求人は急減したが、徐々に回復して13年後半ごろから大きく伸びている。

DODAがまとめた2月の概況によると、サービス登録者に対して中途採用の求人が何件あるかを示す「転職求人倍率」は、前月比0.03増の2.38倍になった。

求人数は前月比2.5%増と最高を更新し、転職希望者は同1.3%増だった。

4月入社をめざして求人を出す企業と転職活動をする人がともに増え、かつてない活況となった。3月以降も採用意欲は衰えておらず、転職求人倍率はさらに上がる可能性が高い。

木下編集長は「就きたかった仕事や大企業に移れるチャンス。希望に近い求人があれば、応募することをお勧めしたい」と話す。

転職で満足感を得られるのは、給料や役職が上がったときだけではない。最近ではキャリアアップよりも、家庭や子育てを重視する流れが強まっている。

家事代行サービスのCaSy(カジー、東京)で広報を担当する里田恵梨子さん(35)は、昨年11月に写真家サービスの会社から転職した。「前の会社は待遇は悪く

かったが、子どもを保育園に預けながらの仕事が大変だった。子育て中の社員も少なく、仕事との両立に悩んでいるときに転職サイトでカジーを知った。私のような人を支えてくれるサービスだと思い、面接を受けることにした」

カジーは14年設立で、社員20人弱のベンチャー企業。首都圏の主要都市などで家事代行をしている。登録スタッフは約1500人で、利用者は約1万5千人。アットホームな雰囲気、経営者も子育てに理解があったという。

「面接にも子どもを連れてきていいと言われた。子育て世帯の支援サービスを提供しているの、子育て中の人を大切にする風土がある。子どもの行事などで早引きすることにも寛容だ。夫から「楽しんで仕事をしています」と言われ、子どもも転職を喜んでいる」

ワーク・ライフ・バランス(WLB)を重視するのは女性だけではない。